



77
まいん

しさがじまごらくじょうあと 四阪島娯楽場跡

島人の心が通う
島の大集会所



娯楽場全景

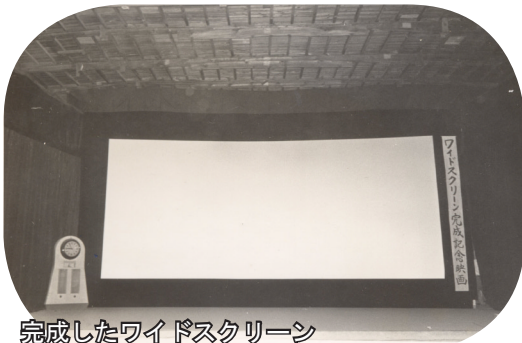
昭和32年撮影 別子銅山記念館所蔵

しさがじまごらくじょう
四阪島娯楽場は、明治41年(1908)5月に四阪島に人々の憩いと安らぎの場として建設されました。

建設当時は旧別子地区や東平地区と同様に廻り舞台があり、収容人数は928人でした。



現在の娯楽場跡



完成したワイドスクリーン

昭和32年撮影 別子銅山記念館所蔵

5月の山神祭や祝祭日に演劇を行い、娯楽としてだけではなく、非常の際の避難所や休憩所として、またあるときは、島内の社員が内職として雑貨や小間物、日用品などの販売の場として様々な用途に利用されました。まさしく島の大集会所といった様相でした。

その後、収容人員の増加を図るために大正15年(1926)11月に建増を行い、収容人員は1,400人となりました。(1階:896人2階:504人)

また、大正時代には島民が5,000人を超えていたため、一度に全ての人が利用できないことから、山神祭では3日間の入場券を白・赤・青で

色分けして各家に配布するなどの工夫もされていました。

昭和28年(1953)12月からは映画の上映が始まり、いつも超満員だったそうです。

昭和32年(1957)9月にはワイドスクリーンが完成し、完成記念に上映されたのは『明治天皇と日露戦争』でした。

映画の上映開始時期は新居浜市内より早かったそうです。

しかし、四阪島製錬所の銅製錬の操業終結とともに閉鎖され、平成4年(1995)10月には解体されその歴史に終止符を打ちました。



娯楽場内部の様子

昭和32年撮影 別子銅山記念館所蔵

